

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	持続性社会の環境心理小委員会	主 査 名：宗方淳 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)	委員長名：田辺新一 主 査 名：松原斎樹
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>持続性社会を構築していくための様々な環境設備技術や計画手法及び研究成果が毎年提案されている。新しい技術が実社会で普及し社会を変革する際には、新技術自体がライフスタイルを一新するようなものである場合と、それまでのライフスタイルに新技術が上手く融合していく場合がある。後者の場合、新技術は利用者の普段の生活の中で使いやすいことが求められる。そのためには、新技術は利用者の知覚認知の特性・価値観・行動パターンにあったものであるべきである。そこで、建築環境計画技術の開発や新技術が実社会で普及の際に必要な人間の知覚・認知・行動・価値観などの環境心理的な知見や課題を整理収集し、実用的な資料として公開することを本小委員会の目的とする。</p> <p>初年度：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 持続性社会のために環境心理的知見が必要な分野や課題の抽出 2) 関連する研究知見の収集と整理 3) 全体のフレームワークの構築 <p>2年度：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 既往研究をテーマとした研究会の実施 2) 国際会議での発表、情報発信と海外の視点からの確認 3) 成果の整理、総括 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：宗方淳 (千葉大)、幹事：佐野奈緒子 (東京電機大)、委員：秋田剛 (東京電機大)、小島隆矢 (早稲田大)、大野隆造 (東京工業大)、讃井純一郎 (関東学院大)、大井尚行 (九州大)、松原斎樹 (京都府立大)、兼子朋也 (関東学院大)、丸山玄 (大成建設)、平沢隆之 (東京大)、伊丹弘美 (早稲田大)、原直也 (関西大)、宮本征一 (摂南大)、加藤未佳 (金沢工大)	
設置 WG (WG 名：目的)	無	
2013 年度予算	88,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	

対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 <small>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</small>	<p>当初設定した活動計画に対して以下の内容からなる十分な成果を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続性社会に貢献しうる既往研究 40 件の収集と整理、および、今後の研究課題 20 件の整理を行い、環境心理研究のあり方を構造化した。 2. 具体的な環境設備や環境行動に対する人々の価値観や行動パターンに関する知見を収集するため、2 件の大規模 Web アンケートを実施し、その結果をまとめた。
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員が定員に達しており、新規の委員募集が出来ない。 2. 電子会議システムが不安定なことが多い為、議事の中断が頻繁にある。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(**中間年度評価**・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> A B C D </div>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>当初設定した活動計画に対して以下の内容からなる十分な成果を得ており、80%の達成度と判断した。なお、目標に対する達成度の20%の差は、収集整理された諸知見より構築するフレームワークの議論がし尽くされていないことによる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続性社会に貢献しうる既往研究 40 件の収集と整理、および、今後の研究課題 20 件の整理を行い、環境心理研究のあり方を構造化した。 2. 具体的な環境設備や環境行動に対する人々の価値観や行動パターンに関する知見を収集するため、2 件の大規模 Web アンケートを実施し、その結果をまとめた。

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。